

平成22年5月13日(木)
住宅都市局公園緑地部動物園
担当： 長野 植谷 電話 092-531-1960

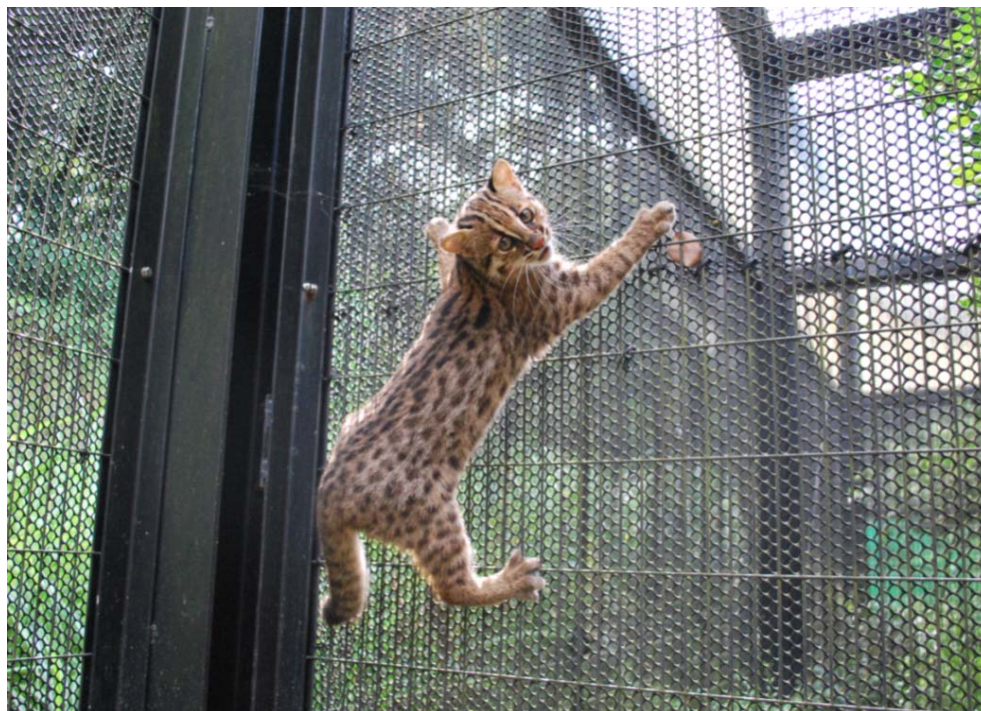
## ツシマヤマネコの移動について（お知らせ）

福岡市動物園では、環境省のツシマヤマネコ保護増殖事業の一貫として、平成8年からツシマヤマネコの飼育を開始し、平成11年から飼育下繁殖について取り組んできました。平成12年に初めて繁殖に成功し、以降は順調に進み、動物園生まれのツシマヤマネコは25頭となりました。

平成18年11月からは、井の頭自然文化園、よこはま動物園、富山市ファミリーパークに個体を移動し、分散飼育に取り組んできました。現在、井の頭自然文化園、よこはま動物園、富山市ファミリーパーク、福岡市動物園の4園で繁殖に取り組んでいます。

このたび、ツシマヤマネコ保護増殖事業における飼育下繁殖の準備のため、5月19日（水）に福岡市動物園生まれのメス2頭を佐世保市亜熱帯動植物園に移動させることになりましたのでお知らせいたします。

なお、感染症の問題等から、当該ツシマヤマネコ及び獣舎等の撮影はできませんのでご了承ください。



No. 48 メス 平成21年5月12日福岡市動物園生まれ(H21年9月撮影)

## <参考資料>

### 1 ツシマヤマネコについて

【学名】 *Prionailurus bengalensis euptilura* (または *Felis bengalensis euptilura*)

【英名】 Tsushima leopard cat

わが国では長崎県対馬だけに生息する小型の野生ネコ科動物で、体重は3~5kg、体長が50~60cm、メスはオスより少し小型で、尾が太く、体色は栗色からクリーム色で輪郭が不鮮明な褐色の斑紋があり、耳の裏側に白斑、額には褐色と白色の明確な縦縞があります。約10万年前に当時陸続きだった大陸から渡ってきたと考えられ、ベンガルヤマネコの亜種と考えられています。

#### <生息数>

1960年代の調査結果では対馬全島に250~300頭が分布していたとされていますが、1990年代には90~130頭に減少し、環境省がまとめた第三次生息特別調査の結果によれば、2000年代前半の野生下生息数は80~110頭と推定されています。

#### <各種指定>

昭和46年に国指定天然記念物に指定され、平成6年には、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（通称「種の保存法」）に基づく国内希少野生動植物種に指定され、さらに平成7年には同法に基づく保護増殖事業計画（環境省及び農林水産省告示）を策定し、保護取組を進めています。平成19年に環境省が公表したレッドリストでは「絶滅危惧IA類」に分類されており、最も絶滅のおそれが高い種の1つです。

### 2 飼育下繁殖の経緯

福岡市動物園では、環境省の「ツシマヤマネコ保護増殖事業」に協力し、平成11年から飼育下繁殖事業を開始しました。平成12年4月に初めての繁殖に成功し、これまでに25頭が成育しています。また、平成18年11月から、災害や感染症の発生などに備えて危険分散を図る目的で、井の頭自然文化園、よこはま動物園ズーラシア及び富山市ファミリーパークに個体を移動して飼育されています。

現在、捕獲した個体も合わせて福岡市動物園で12頭、佐世保市亜熱帯動植物園で2頭、井の頭自然文化園で4頭、よこはま動物園で4頭、富山市ファミリーパークで4頭、対馬野生生物保護センターで8頭、あわせて34頭が飼育下個体群として飼育されています。

### 3 分散飼育動物園の拡充

環境省は社団法人日本動物園水族館協会と連携し、分散飼育先となる動物園との調整を進めてきましたが、18年度に井の頭自然文化園及びよこはま動物園に、19年度に富山市ファミリーパーク、21年度に佐世保市亜熱帯動植物園に移動させ、分散飼育園館の拡充が図られています。